



家樂福桂林店

家樂福(カルフル)桂林店

台北の家庭を支える 24時間営業大型スーパー

フランス系の大型量販店「カルフル」の台湾での店名「家樂福」は「家家快樂又幸福(楽しくて幸せな家庭)」を意味します。台湾では共働きの家庭が非常に多く、台北などの都市部では会社帰りに買い物をしたり、週末に一週間分の食材を買いだめしたりすることが多いので、24時間営業の大型スーパーの人气が高く、台湾には約140の店舗があります。MRT西門駅から歩いて数分のところにある家樂福(カルフル)桂林店は、清の時代に創建された龍山寺のほか、剥皮寮歴史街区や西本願寺跡、小南門など歴史的建造物が多くある万華区にあります。食料品(生鮮食品や惣菜等)のほか、日用品、衣料品、スポーツ用品、電気製品など様々な商品が売られていますが、観光スポットが近くに多くあることからお土産用のお菓子なども充実しています。



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_north/539/



エリア

台北市

テーマ

産業

食文化

学 び の ポ イ ン ト

1.

台湾の食卓事情

料理をする家庭は、市場(いちば)やスーパーで食材を買いますが、共働きや家に台所がないといったことが理由で料理をしない人もあり、外食をしたり、スーパーで惣菜や冷凍食品を買ったり、セルフ式惣菜屋(自助餐)やレストランのテイクアウトを活用したりする家庭も多くあります。また、最近では、ウーバーイーツやフードパンダといった、日本でも見られる宅配サービス(デリバリー)を利用する人も増えています。

2.

買い物の習慣

台湾人はお買い得が大好きです。市場でもスーパーでも、「買一送一(ひとつ買うとふたつ目がただになる)」や「2個目は半額」など、割引の値札をよく見かけます。割引の場合、日本の「〇割引」とは違い、割り引かれたあとの金額を示す(日本語の「〇掛け」にあたる)「〇折」という言葉が使われます。例えば2割引なら「8折」と表示されます。また、市場では値切ったり、試食をさせてもらうなどの交渉もできます。カルフルの店舗が比較的市街地に多いのに対し、郊外には米国系会員制量販店のコストコやアウトレット(三井等)もあり、親戚や友だちと誘い合って買い物に行き、大量に買った物を分け合うといったことも見られます。

3.

コンビニ(便利商店)大国台湾

日本でもおなじみのセブン-イレブン、ファミリーマートが町のいたるところに見られます。店内にイートインコーナーがあることや、ファミリーマートで店内に入るときに流れる音楽がほぼ同じといった日本との共通点多々ありますが、商品のセレクトや店内にただよう匂いが日本とはかなり違います。最近では、7-11×カナヘイなどのキャラクターのコンセプト店舗のほか、ベーカリー、ドラッグストア、本格的なカフェなどを併設する生活提案型の複合店も増え、ただ便利というだけではない様々な機能を備えたコンビニが都市部を中心に増えています。